

調査結果の分析

全国学力・学習状況調査 平均正答率 (対象:小学6年、中学3年) 単位%

| | 小学校 | | | | 中学校 | | | |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| | 国語A | 国語B | 算数A | 算数B | 国語A | 国語B | 数学A | 数学B |
| 全国 | 62.7 | 49.4 | 77.2 | 58.4 | 76.4 | 67.4 | 63.7 | 41.5 |
| 岡山県 | 61.4 | 47.7 | 74.6 | 57.2 | 76.4 | 66.4 | 62.8 | 40.3 |
| 津山市 | 60.4 | 45.8 | 74.5 | 53.3 | 74.4 | 62.3 | 58.5 | 35.5 |
| 国との差 | -2.3 | -3.6 | -2.7 | -5.1 | -2.0 | -5.1 | -5.2 | -6.0 |
| 県との差 | -1.0 | -1.9 | -0.1 | -3.9 | -2.0 | -4.1 | -4.3 | -4.8 |

岡山県学力・学習状況調査 平均正答率 (対象:中学1年) 単位%

| | 国語 | 社会 | 数学 | 理科 |
|------|------|------|------|------|
| 岡山県 | 58.0 | 62.4 | 46.2 | 46.0 |
| 津山市 | 58.0 | 63.6 | 44.0 | 43.2 |
| 県との差 | 0.0 | 1.2 | -2.2 | -2.8 |

| | 国語A | 国語B | 社会A | 社会B | 数学A | 数学B | 理科A | 理科B |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 岡山県 | 62.0 | 40.1 | 66.8 | 54.3 | 52.1 | 31.4 | 57.0 | 32.6 |
| 津山市 | 61.9 | 40.4 | 68.9 | 53.5 | 49.9 | 29.4 | 54.6 | 29.2 |
| 県との差 | -0.1 | 0.3 | 2.1 | -0.8 | -2.2 | -2.0 | -2.4 | -3.4 |

全国及び岡山県学力・学習状況調査の概要

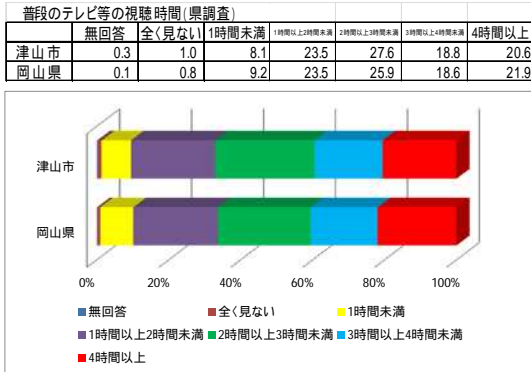
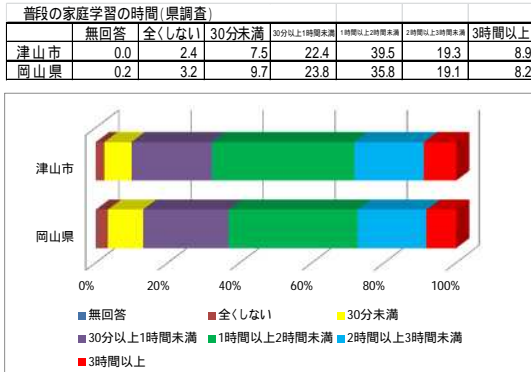
< 学力状況調査 >

全国調査では、全項目において、全国・県の平均正答率を下回っている。小学校は、算数B以外は前年度と比べて県の平均正答率との差が縮まっている。中学校は横ばいの状況である。県調査における平均正答率は、数学と理科は県平均を下回っているが、社会が県平均を上回り、国語は県と同じである。項目別平均正答率は、国語B、社会Aが県平均を上回っている。正答数の分布の様子は、小中学校とも全国・県に比べ、上位層が少なく中下位層が多い傾向にある。特に、全国調査においては、中学校の数学Bの下位層が多い。無回答率は記述式の問題を中心に、小中学校とも全国・県より高い。基礎基本的な知識・技能を問う問題のうち漢字の読みや式の計算等の正答率は比較的高いが、記述式の問題や情報の読み取り等を問う活用型の問題の正答率は低い。

< 学習状況調査 >

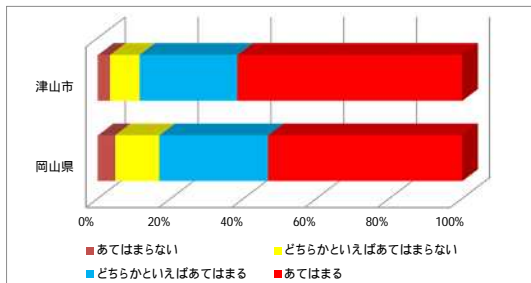
家庭学習時間(1時間以上)の割合は、県調査においては、県平均より高く、家庭学習をする生徒と全くしない生徒との差が縮まっている。全国調査においても、前年度と比較すると、差が縮まっている傾向がみられる。テレビ等の視聴時間(3時間以上)は、小中学校ともに割合が高い。しかし、県調査では、前年度と比較すると、差が10.3p下回っている。授業の進め方については、「学習のねらいや目標の提示」等、肯定的な回答をした割合が増したが、「グループで考えを出し合い深め合う」「学習の振り返りをする」等の項目は県平均を下回っている。「各教科の勉強が好き」「授業内容がよく分かる」等、情意面の回答率は多くの項目で、前年度と比べて上回っている。あいさつ、地域行事への参加等については、肯定的な回答が県より高い。読書を全くしない小中学校の児童生徒の割合は県より高い。

全国及び岡山県学力・学習状況調査の質問紙において特徴が見られた項目



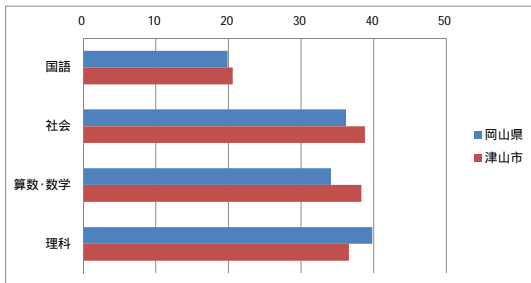
授業のはじめに、学習のねらいや目標が示されていた。(県調査)

| | あてはまらない | どちらかといえばあてはまらない | どちらかといえばあてはまる | あてはまる |
|-----|---------|-----------------|---------------|-------|
| 津山市 | 3.3 | 8.1 | 26.9 | 61.6 |
| 岡山県 | 4.7 | 12.2 | 29.8 | 53.2 |



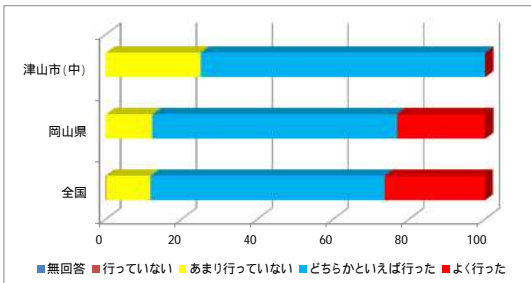
各教科<国・社・数(算)・理>の勉強は好きだ。(県調査)

| | 国語 | 社会 | 算数・数学 | 理科 |
|-----|------|------|-------|------|
| 中学校 | 20.6 | 38.8 | 38.3 | 36.6 |
| 津山市 | 20.6 | 38.8 | 38.3 | 36.6 |
| 岡山県 | 19.9 | 36.2 | 34.1 | 39.8 |



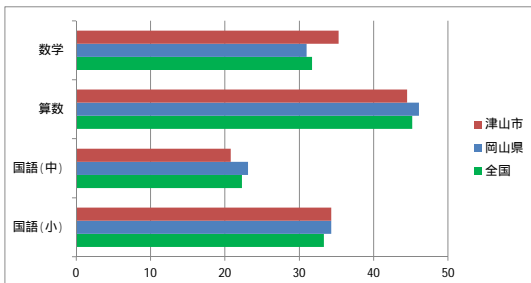
授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた。(全国調査)

| | 無回答 | 行っていない | あまり行っていない | よく行った |
|--------|-----|--------|-----------|-------|
| 津山市(中) | 0.0 | 0.0 | 25.0 | 75.0 |
| 岡山県 | 0.0 | 0.0 | 12.3 | 87.7 |
| 全国 | 0.0 | 0.2 | 11.6 | 88.2 |



各教科<国・数(算)>の授業内容はよくわかる。(全国調査)

| | 国語(小) | 国語(中) | 算数 | 数学 |
|-----|-------|-------|------|------|
| 津山市 | 34.3 | 20.8 | 44.5 | 35.3 |
| 岡山県 | 34.3 | 23.1 | 46.1 | 31.0 |
| 全国 | 33.3 | 22.3 | 45.2 | 31.7 |



成果と課題

本市の平均正答率は県を下回っている教科が多く、知識の確実な理解や技能の定着において課題がみられる。しかし、全体的には県との差が縮まっており、学力向上に向けた取組には一定の成果が見受けられる。基礎的・基本的な知識・技能を問う設問の正答率は概ね高いが、思考力・活用能力・表現力・読解力等を問う活用型の設問の正答率は低い。無解答率は県と同様に文章での表現や記述の問題では無解答率が高い傾向がある。「各教科の勉強が好き」「授業内容がよく分かる」等、情意面の回答率は改善がみられ、これまで行ってきた授業改善に向けた取組の成果と考えられる。「学習のねらいや目標を明確にする」の項目は改善傾向がみられるものの、「グループで考えを出し合い深め合う」「学習の振り返りをする」等の項目は、依然として県平均を下回っており、これらでの「3つの提案6つの取組」を基盤とした授業改善を一層推進する必要がある。「テレビ等の視聴率」「家庭学習の時間」では、今までの調査と同様に課題がみられ、継続した取組が必要である。しかし、前年度と比べると、一定の改善が図られており、これまで取り組んできた「チャレンジハッピーデー」における家庭学習の充実やノーマディアデー等の取組の成果と考えられる。

課題に対応した改善方法

全国及び岡山県学力・学習状況調査で明らかになった課題を踏まえ、更なる本市の教育課題を明確にしながら、今後も「津山市学校力向上推進プラン」をもとに、「わかる授業・楽しい学校」に向けた取組を着実に推進していく。
改善策1: 基礎・基本の定着を図るため、めあてやまとめ、振り返り等の授業の基本を徹底し、子どもの意識を考えた授業改善を促進する。[子どもの意識を踏まえた授業改善]
改善策2: グループ学習や学び合い等の考えを深める指導方法や指導形態等の一層の工夫を推進するため、講師を招聘しての研修会等を実施し、授業の質の改善に取り組む。[子どもが主体的に活動する学習過程重視の授業改善]
改善策3: 思考力・判断力・表現力等のPISA型学力を育成するため、県並びに全国調査問題や県到達度確認テスト等の活用を推進し、授業改善や学習指導の一層の充実を図る。[活用問題をいかに学習指導や授業改善]
改善策4: チャレンジハッピーデーの期間において、テレビ視聴時間や家庭学習時間についての状況確認を行い、家庭での生活習慣や生活リズム等の定着をより一層家庭に働きかける。[子どもの総家庭学習時間の確保]
改善策5: 各学校においては、中学校ブロックでの取組を踏まえた「学力・学習状況改善プラン」を作成し、今後の指導に活用する。また、設問ごとの誤答の状況を分析し、つまづきに応じた支援策を明確にした「設問ごとの改善プラン」を作成し、課題解決に向けた指導改善を促進する。[改善プランによる学力検証サイクルの確立]

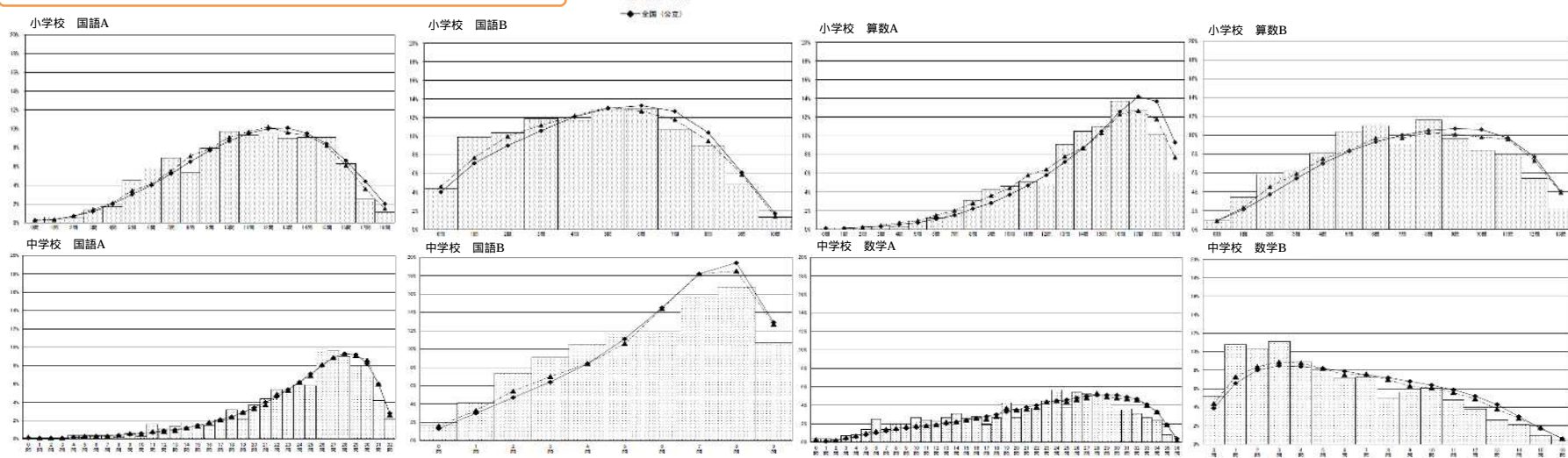
取組の検証方法及び検証時期

指定研究事業や授業公開等による改善状況の把握
小3、小5の標準学力検査の実施(小3は3学期、小5は1学期。結果を受けて改善策の見直し)
hyper-QUによる児童生徒の実態把握(小5と中1で年2回実施)
小5、中2に学力定着状況たしかめテストの実施(2学期末。結果を受けて改善策の見直し)
家庭学習強化週間の実施(チャレンジハッピーデー等)

達成目標(数値目標)

全教科とも県の平均正答率を上回る。
全く家庭学習をしない児童生徒の割合を0にするとともに、家庭学習(1時間以上)の割合を県平均以上にする。

全国学力・学習状況調査 平成25年度正答度数分布



岡山県学力・学習状況調査 平成25年度正答度数分布

